

「生活の視点を大切に」



南山城村保健師 下村恵さん

出身は兵庫県宝塚市。豊岡市の看護学校を卒業後に看護師として勤めたのち、縁あって南山城村の保健師として働き始めて4年目だ。3月に長男が生まれ、現在産休中である。

保健師を志したきっかけは、看護学校時代の訪問看護の実習で地域医療のことをもっと勉強したいと思ったからだという。

「ひとりのために様々な職種が会議を開いて支援計画を行っていくことがいいなあと思ったんです。」

保健師コースに転入してからは、より地域に密接に関わる市町村の保健師にあこがれた。念願かなって南山城村の保健師となり、現在は乳児健診や予防接種のほか包括ケアも担当している。

最初のころは、地縁・血縁の強い村特有の、ネットワークに入っていくことの難しさも感じたという。住民とのコミュニケーションの部分をより大切に、保健師としてだけではなく、ありのままの自分を見てもらうようにした。3年ほど経って、ようやく住民との信頼関係が築けてきたのではないかと感じている。親戚づきあいのような住民どうしでの情報の共有を教えてもらったり、悩みを打ち明けられたりすることもある。介護で関わっていたおばあさんの、孫の健診に携わるなど、地域の関係性も見えてきた。

保健師として大事にしているのは、生活者としての視点だ。

「どんな人でも生活が変わる時があります。その転機を見逃さないようにしています。」
困ったことはないか、という漠然とした質問では問題が表れにくいこともある。世間話や、

洗濯物が取りこまれているかなど、ちょっとした生活の変化に気づき、必要があれば介護やデイサービスなどを勧めるようにしている。

村は人材も資源も少ないうえ、行政の役割は他の市や町と変わらない。そのため一人がいくつも仕事を兼務しなければならない。それでも、保健師が外に出て行くことを支持してくれる職場環境に感謝している。村に2人しかいない保健師として、先輩の築いてきた信頼関係を引き継ぎながら、より地域に溶けこんでいきたいと語った。